



MIFA NEWS

No. 48

3/31. 2008

Moriya International Friendship Association

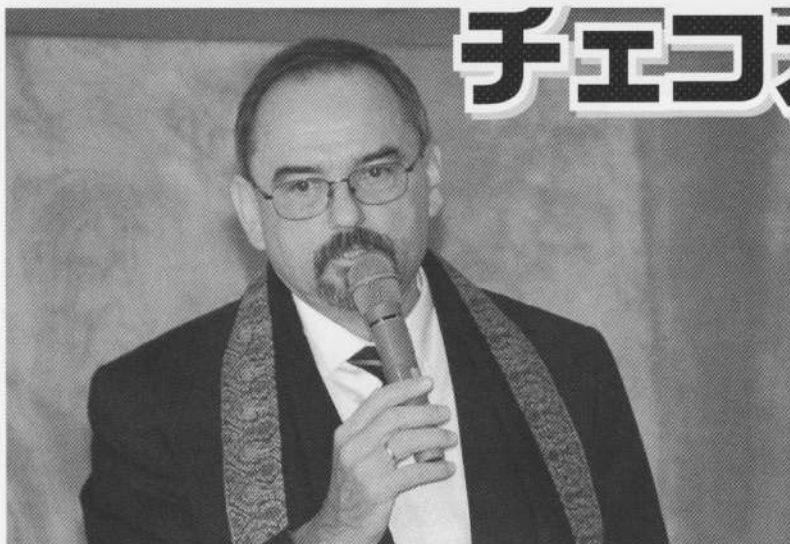
守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1

電話：0297-45-1111

URL: <http://www.fureai.or.jp/~mifa>

チェコ大使講演会



チェコと聞いて何を思い浮かべますか？
美しいプラハを守るためにナチスドイツに屈したこと。ソビエトに侵攻された「プラハの春」、ピロード革命による民主主義の獲得、スロバキアとの分離。

11月24日、ログハウスでチェコ共和国大使講演会が行われました。ヤロミール・ノヴォトニー大使は駐インド大使を経て2006年5月から駐日チェコ大使を務められています。今回は、数千年の歴史や文化の紹介、お勧めの観光スポットや芸術、チェコ料理に至るまで、多岐にわたるさまざまなお話をいただきました。チェコ大使館訪問に同行した林さんは、チェコ倶楽部Jaro代表の方で、今回の講演会開催に当たっては多大な協力をいただきました。当日は大使館や林さんにお借りしたチェコの人形や書籍を会場に飾り、文化の一端を見せていただきました。



2007年4月～2008年3月の主な事業

- 3.28～4.6 マインブルク市市民訪問団来市
- 4.21 JICA筑波国際センター一般公開参加
- 4.22 守谷市国際交流協会理事会
- 5. 9 日本語講座講師講習会開講
- 5.16 第37回外国人のための日本語講座開講
- 5.27 2007年度MIFA総会
- 6. 9 守谷市青少年海外派遣事前研修参加
- 6.19～25 グリーリー市高校生来市
- 7.28～29 JICA研修員ホームステイ
- 8.18・19 北守谷地区夏祭り出店
- 8.25・26 きらめき守谷 夢彩都フェスタ2007出展
- 9.19 第38回外国人のための日本語講座開講
- 9.29 異文化交流事業「カンボジアの地雷撤去と自立支援」参加
- 9.30 MIFAフェスタ
- 10. 6 守谷市国際交流協会理事会
- 10.20 ワールド・パートナーシップ・フォーラムin茨城参加

- 10.21 MIFAサロン「マインブルクに親しむ」
- 10.28 ようこそ守谷2007出展
- 11. 4 開発教育ワークショップ「パーム油って何？」
- 11.17 青年交流委員会新入会員歓迎会
- 11.17 阿見町国際交流協会設立10周年記念式典出席
- 11.24 チェコ共和国大使講演会
- 12. 8～9 筑波大学留学生ホームステイ
- 12.15 Welcome to MIFA（新規会員説明会）
- 12.15 イヤー・エンド・パーティー
- 1.12～14 筑波大学短期研修生（韓国現職教師）ホームステイ
- 1.16 第39回外国人のための日本語講座開講
- 2. 9 守谷市国際交流協会理事会
- 2.24 MIFAコンサート 草原のチェロ～
- 3. 8～9 青年交流委員会卒業を祝う会
- 3. 9 MIFAサロン グリーリーを知ろう



9月30日、ログハウスでMIFAフェスタ2007“我々地球人”が行われました。JICA研修員は37人と例年より少なかったのですが、市民が57人参加（うち10人が外国の方）と大勢参加して盛り上がったフェスタになりました。

MIFAフェスタ2007

当日はあいにくの雨模様で、屋外で予定されていたコーナーはすべてログハウス内で行われ、少し息苦しいほどのフェスタになりました。



お茶席、日本舞踊、お箏、習字などの体験コーナーは常にJICA研修員が集まって賑わい、初めのうちは手持ち無沙汰ぎみだった剣玉やメンコのコーナーも終わりごろは人だかりができるほどで、担当したボーイスカウトの子どもたちも喜んでいました。

イヤー・エンド・パーティー&新入会員オリエンテーション



12月15日、ログハウスでイヤー・エンド・パーティーが行われました。「世界の料理」をテーマに、ドイツのソーセージをはじめ中国、ベトナム、アメリカ、日本の料理を揃えました。デザートには、イギリス人のレイチェルさんの指導の下、会員がイギリス伝統のミンスミートパイとキャロットケーキを焼き、好評でした。レイチェルさんからは、ケーキの作り方だけでなく、イギリスのクリスマス時期の過ごし方やお菓子の話をしていただくなど、異なる国の習慣、文化を聞くことができました。

また、初の試みとして、パーティーの前に新入会員向けのオリエンテーションを開きました。会員になってもMIFAがどのような活動をしていて、何ができるのか、参加するにはどうしたら良いかわからないなど、参加したいのだけれどなかなか活動に踏み込めない方もいます。今回はプロジェクターを使い、活動の様子を視覚で見ながら専門委員会委員長の説明を受け、引き続いて行われたパーティーで個別に説明を受けるなど詳しく内容が確認できたせいか、参加した新規会員の中から20人を超える方が専門委員会に登録されました。新しいアイデアで協会活動が活性化することを期待しています。

筑波大学留学生 ホームステイ



12月8日から9日にかけて、筑波大学留学生6人（スロバキア、メキシコ、韓国、台湾、中国、キルギスタンから各国1人）を迎え、ホームステイが行われました。

8日は、簡単な食事の後、着物に着替え投扇興を楽しんでいただきました。日本人でも体験した人は少ない投扇興なので、参加した人たちは大いに盛り上がり、楽しく交流ができました。

* 国際交流協会会員募集 *

守谷市国際交流協会は、市民による市民のための国際交流を目指し、会員はボランティアで企画・運営を行なっています。

国際交流に興味があり、活動できる人なら誰でも歓迎します。行事に参加するだけでなく、企画・運営から参加することもできます。

加入を希望される方はリーフレット、申込書をお送りしますので、協会事務局〈市役所くらしの支援課 0297-45-1111（内132）〉までお申し込みください。

開発教育

パーム油の話



11月4日、ログハウスで、昨年に引き続き開発教育協会から西あいさんに来ていただき、参加体験型ワークショップ形式で勉強会が行なわれました。今回は、「パーム油」を題材に「本当に地球に優しいということはどういうことか」を考えました。

消費国日本で生活している私たちが、「人に優しい」「地球に優しい」と思っていたパーム油も、生産国から見れば、熱帯雨林の破壊や現地の人の生活環境を強制的に変化させている現実があることを知りません。今回はパーム油をとおして、環境問題も地球規模で考えなければならないことに気付かされました。

参加者たちは活発な意見交換を行い、とても楽しかった、勉強になったという感想が数多く寄せられています。参加者が少ないことが気になります。今回は、17人の参加でしたが、国際交流のひとつとして、環境問題には限りませんが、文化や伝統の違い、価値観の違い、格差の問題など相手（他者）の立場を知ることも必要であり、積極的な参加がほしいと思います。

世界と私たちのつながりを学ぶ

～公正な地球社会の実現のために

西 あい（特定非営利活動法人開発教育協会）

グローバル化の進んだ現代において、私たちの日常生活は、世界と様々な形で密接に関わっています。例えば、それは食料品売り場で原産国を見ることからも、名前になじみのある商品や企業が海外から来ていることから、そして外国をルーツにもつ多くの隣人と出会うことから、感じることができます。

このように複雑につながりあった世界で暮らしているということは、同時に私たちの日常生活やちょっとした行動・習慣が、遠い外国に暮らす誰かに影響を与えている可能性があるということも、意味しています。そして、もしそれが悪影響である場合は、それを改善することもできる、ということでもあるでしょう。

「開発教育」と呼ばれる教育活動は、こうした世界の様々なつながりに気づき、そこにどのような事実が存在するのかを理解し、誰もが共に生きることのできる公正で持続可能な社会を実現することをめざしています。そのために私たちに何ができるのかを考え、さらにはそれを実践できるようになることが、開発教育のねらいです。

例えば、先日実施された講座「パーム油のはなし」を例にとれば、アイスクリームやカップ麺、カレールウ、コーヒークリーム、植物石鹸などの私たちの身近な品々に使われている食材であるパーム油が、海外のある人々の生活にどのような影響を及ぼしているのかを知り、私たちと世界とのつながりが、必ずしも「公正」な形ではないという現実気づき、その解決に向けて私たちにできることは何かを考えました。このように、「世界と私たちとのつながり」という視点を持

ちつつグローバルな課題を捉えること、そしてそこから私たちにできることを見出すことは、開発教育の主要な柱と言えます。

もうひとつ、開発教育が重視するのは、自分とは異なる文化・生活を尊重するという視点です。世界には多様な文化や価値観が存在しますが、私たちはとかく自分の価値観や視点を基準にして、それらの「優劣」を判断しがちです。多様な価値観を尊重しあうことは、「世界の人々が共に生きることのできる社会をつくる」ための重要な一歩とも言えるでしょう。

ところで開発教育は、ここまで書いてきたことを、一方的に教えたり押しつけたりする教育活動ではありません。開発教育は、学ぶ側の主体性を重視しています。それは、開発教育が知識を得ることを目的としているのではなく、一人一人の気づきや態度の変容、社会に参加できるための力量を高めることを目指しているためです。そのために、開発教育は参加型の学習形態（ワークショップ）をとることが多いのです。

もしもより良い世界をつくるということにご関心があれば、その気軽な第1歩として、まずは開発教育のワークショップに、足を運んでみるというのはいかがでしょう。

参考文献：「開発教育ってなあに？ 開発教育Q&A集改訂版」（NPO法人）開発教育協会 発行



ようこそ守谷2007



守谷市はこの1年間に人口が1,700人増加しています。この新しい市民に守谷市を紹介するイベントが「ようこそ守谷」で、今年度は10月

28日、常総運動公園で行われました。MIFAは活動の紹介を目的に出展しました。

転入された新しい市民の方に直接活動を紹介する機会は少なく、今後もさまざまな機会を得て、協会活動を積極的にPRしていきたいと考えています。

MIFA♪ 馬頭琴の響き

2月24日、ログハウスで、MIFAコンサート「草原のチェロ～馬頭琴の響き」が行なわれました。同じアジアの国の伝統的な楽器ということもあり、84



人が来場し、広いホールも人で埋まりました。「草原のチェロ」というタイトルどおり、目を閉じるとモンゴルの草原を吹き渡る風が感じられた演奏会でした。

演奏会後に行なわれた交流会では、モンゴルのお菓子やお酒、小羊の肉を使った料理なども出され、あちこちで記念写真を撮るなど話の花が咲いていました。

青年交流委員会 卒業生を祝う会



3月8日、白寿荘をお借りし、卒業生を祝う会を行いました。

最初に来年度の事業作成や予算案のことなどを話し合い、その後、皆で楽しくご飯を食

べ、トランプなどのレクリエーションをし、最後に卒業生にささやかなプレゼントを贈りました。皆とても喜んでくれ、楽しく行なうことができました。

MIFAサロン

都市交流委員会では、守谷市の姉妹都市であるマインブルク市とグリーリー市を市民にもっと知ってもらおうとサロン形式で紹介事業を行なっています。

“マインブルク”に親しむ



10月21日、ログハウスでMIFAサロン「マインブルクに親しむ」が行われました。

国際交流員のブリタさんに、ドイツの家庭、学校制度、働く女性、食事について話してもらい、都市交流委員が簡単なマインブルク市の紹介をした後、青少年海外派遣でドイツを訪問した団長から、マインブルク、ミュンヘン、ベルリン、ドレスデンなどの写真を使った紹介がありました。旅行で観光地を見るのとは違った「ドイツの今」がよくわかり、会員手作りのサンドウィッチは本場ドイツパンを東京から取り寄せたことで、「ドイツの味」も堪能できたと好評でした。

将来的にはたとえば「マインブルククラブ」といったグループができて、マインブルク市民と草の根交流ができるようになれば良いと考えています。

“グリーリー”を知ろう



「グリーリー市を知ろう」が開かれたのは、3月9日。すっかり春めいて暖かな日でした。

昨年、青少年海外派遣団としてグリーリー市を訪れた団長をゲストにお招きし、その時の写真を見ながら体験談をお話いただきました。ほかにも歴代の団長、随員も来られ、それぞれの思い出を語ってくれました。

もともと国際交流協会は、市民交流のために作られた協会です。こうした集まりがもっと頻繁に行なわれても良いのでは、と思いました。